

特許文章ライティングマニュアル

：特許ライティングにおける「伝える日本語」と「訳せる日本語」

横井俊夫

一般財団法人日本特許情報機構特許情報研究所

目次※：

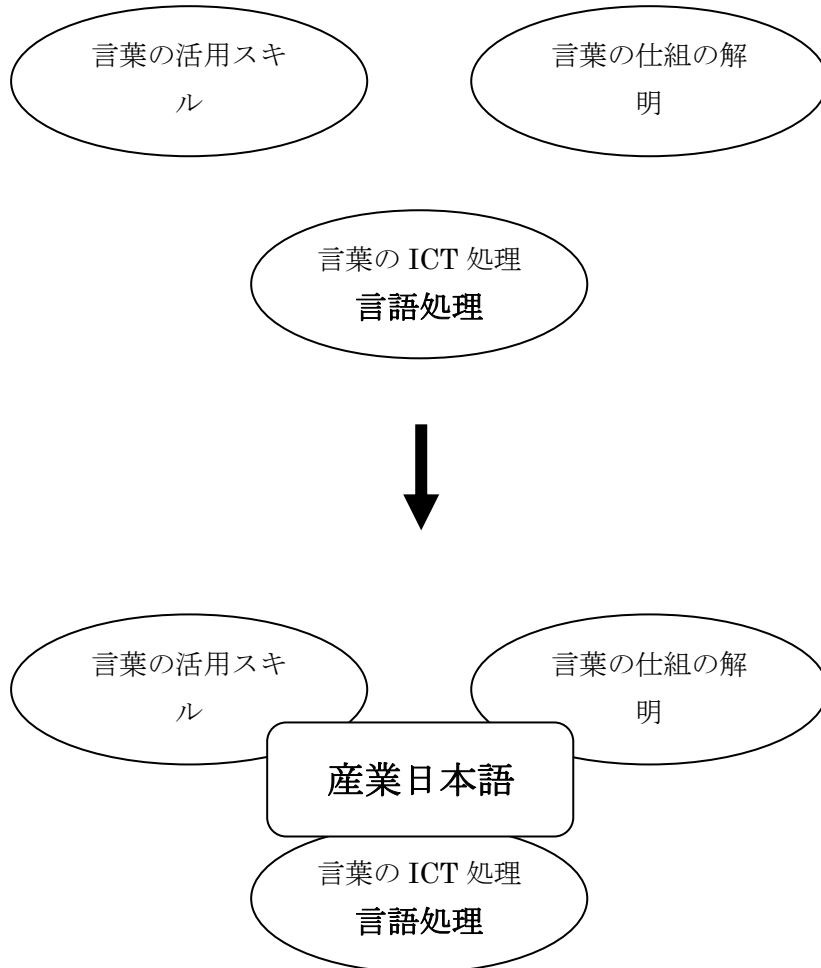
1. 特許ライティングのモデルプロセス
2. 特許文章ライティング - 日 X 翻訳によって多言語に対応 -
3. X 文文書を利用する - X 日翻訳に基づいて -
4. 特許文章ライティングマニュアルの構成
5. マニュアルから高度な支援システム・支援環境の実現へ
6. 特許ライティングタスクフォース (PWTF) の活動

参考文献

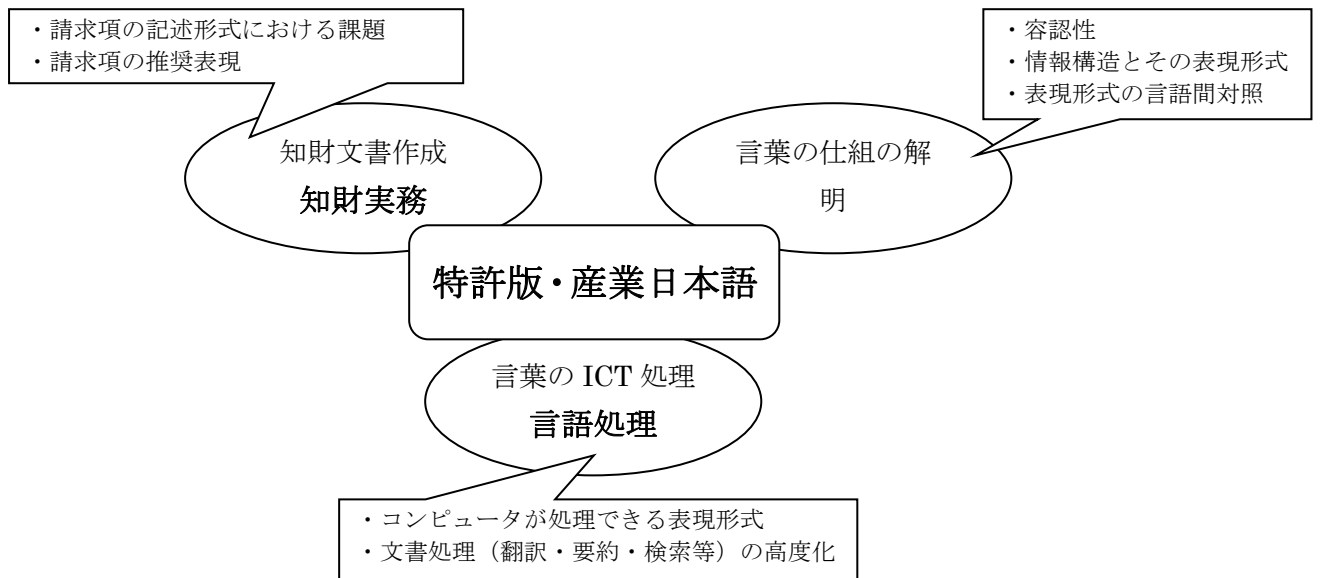
- 付 1. 特許文章ライティングの例
- 付 2. PWTF 統合作業表フォーマット

※ [この部分は、予稿集使用]

産業日本語の位置づけ



特許版・産業日本語における例



なぜ産業日本語なのか

日本の製造業の企業内コミュニケーションの変遷

高度成長期：世界に類を見ない濃密なコミュニケーションを実現

系列と年功序列・終身雇用・企業別組合に支えられ、日本人（日本語）に閉じた安定した活力に富んだコミュニケーションが実現

↓

高品質工業製品を作り出す製造プロセスを実現

バブル崩壊後：3D 設計と ICT によるコミュニケーションが日本的コミュニケーションを凌駕し始める

1990 年代半ばに変曲点を迎え、2000 年代半ばまで余韻が続いた

最近：企業内コミュニケーションの劣化が進む

グローバル化とオープン化

企業系列の解体

雇用形態・就業形態が激変

産業日本語：日本の産業コミュニケーションの再構築

日本語の壁の活用：過剰なグローバル化・オープン化への対抗

開かれた日本語：日本語を鍛え、グローバル化・オープン化への対応

高い生産性の日本語：高機能な ICT 処理を可能化

産業インフラとしての日本語：産業情報・企業情報の基盤メディア

情報基盤としての日本語：少子高齢化社会に対応できる日本の情報基盤の構築

なぜ知財文書なのか

日本の知財文化の課題（特許大国にもかかわらず）

日本製品の優位性：知財の優位性より製造プロセスの優位性に依存

内向きの知財文化：内向きの特許文書

新興国との軋轢：中国・韓国等のアジア諸国への市場の拡大を後追いする知財

日本産業の基盤

資源の安定的確保：希少鉱物資源、エネルギー資源、新資源の研究開発

知財の保全：主張できる知財、産業情報インフラとしての知財情報